

◆ 気になる話題 ◆

感染症の発生動向を調査しています

「インフルエンザが流行し始めました！」「ヘルパンギーナが大流行！！」など、感染症についての、ニュースをご覧になったことがあると思います。

これは、全国規模で感染症の発生動向を調査しており、集めた情報を積極的に情報提供することで、感染症の拡大を防止することを目的としています。

奈良県でも、感染症発生動向調査として、県内の医療機関にご協力いただき、感染症の発生状況（疾患別・男女別・年齢別の患者数）の情報を集め、患者数の増減に注視し、流行がみられるときは、積極的に情報提供を行っています。

中でも、毎週の発生動向の調査にご協力いただいている医療機関は、**定点医療機関**として、奈良県知事が依頼した医療機関で、県内で延べ 114 医療機関（インフルエンザ 55、小児科 35、眼科 9、性感染症 9、基幹（入院）6）あります。発生状況の情報は、その医療機関で感染症と診断したすべての患者さんについて、疾患別・男女別・年齢別に分けて報告いただいています。

また、上記**定点医療機関**に更にご協力をいただき、感染症の原因となる微生物の調査をしています。患者さんから病原体（検体）を採取してもらい、奈良県保健研究センターでウイルスの遺伝子型などの詳細な検査を行っています。ウイルスの詳細がわかると、今後の流行の予測ができたり、ワクチンを作る時の参考にしたりします。



これ以外にも、感染症の中でも重篤な感染症については、すべての医療機関から届出をいただき、拡大防止のため、積極的な疫学調査・衛生指導を行っています。結核、腸管出血性大腸菌（O157など）、AIDS、薬剤耐性菌感染症、麻しん、風しんなどです。

患者さんの皆さまには、県内の医療機関での感染症発生動向調査にご理解いただきますようお願いいたします。

また、医療機関におかれましては、日頃のご協力に感謝するとともに、さらなる積極的な検体の採取をお願いできたらと、切願しております。

今後とも、奈良県感染症発生動向調査によろしくご協力いただきますようお願いいたします。



（感染症情報センター 0744-47-3183）